

校正方式

出典:「校正方式マニュアル」(編集委員長:田口玄一 発行所:日本規格協会)

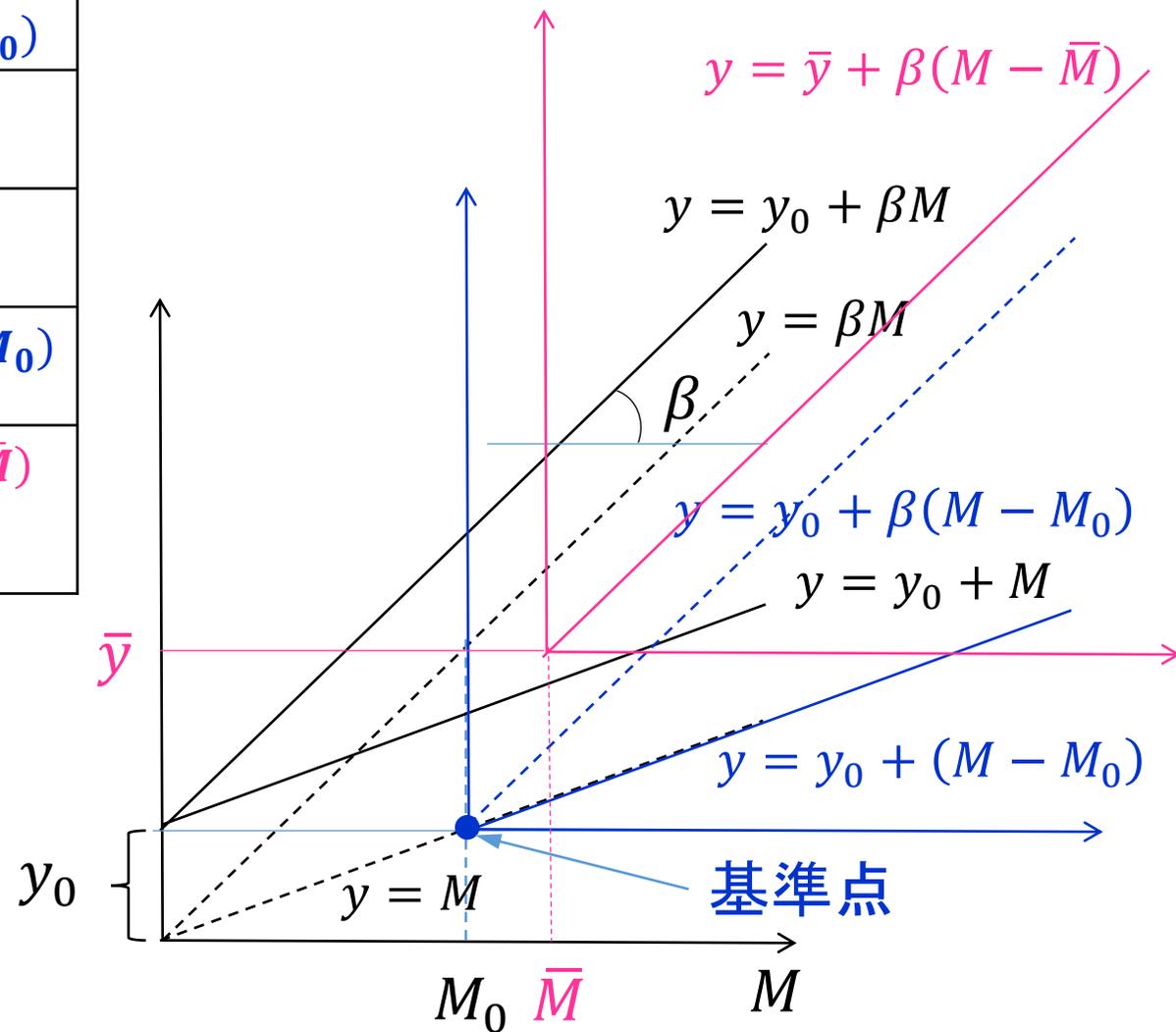
	点検及び修正を行う		点検だけ行う		修正だけを行う	無校正
点検	実施		実施		未実施	未実施
結果	○	×	○	×	↓	↓
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
修正	↓	実施	↓	↓	実施	未実施
使用	使用	使用	使用	廃棄	使用	期限まで使用
備考	一般的		修正コスト高い場合			

決められるべき内容

- ① 校正内容:校正の種類、標準、水準
- ② 校正手順:校正の間隔、手順、作業後の処理
- ③ 測定手順:校正間隔内の使用条件による誤差、測定手順

校正の種類

	校正の種類	関係式
a	点検だけの校正: 読みをそのまま測定値	$y = M$
b	零点校正: 零点の読み y_0 で定点校正	$y = y_0 + M$
c	基準点校正: 基準点 M_0 の読みで定点校正	$y = y_0 + (M - M_0)$
d	目盛間隔校正: 任意の点を零点にして傾斜を校正	$y = y_0 + \beta M$
e	零点比例式校正: 零点の読みをゼロと仮定して傾斜を校正	$y = \beta M$
f	基準点比例式校正: 基準点 M_0 の読み y_0 で定点校正後、傾斜の校正	$y = y_0 + \beta(M - M_0)$
g	一次式校正: 読み y の平均値 \bar{y} 及び標準の値 M の平均値 \bar{M} を用いて定点の校正及び傾斜の同時校正	$y = \bar{y} + \beta(M - \bar{M})$



校正に用いる標準とは？

測定量の真の値を実現するもの

- ・ 予め値付けされた標準器（基準分銅、ブロックゲージなど）
- ・ 標準となる測定量の発生器（電圧発生器、
- ・ 上位の計測器

標準の区分

- ① 点検のための測定に用いる標準
- ② 修正のための測定に用いる標準

標準の水準

	水準の数	水準の範囲
点検時	代表的な1つの水準	測定範囲の中心に近い値
定点の校正	1水準	測定範囲の上下限に近い値
傾斜の校正	2水準	
	3水準以上	測定範囲の上下限に近い値とその間の値
零点比例式	零点を標準に含める	

点検の手順

手順1: 標準の測定 k 個の標準 $M_i (i = 1 \dots k)$ を n 回測定し、読み $y_{ij} (i = 1 \dots k, j = 1 \dots n)$ を得る

手順2: 測定値 \hat{M} と真値との誤差

手順3: 修正限界 D と比較して修正作業の有無を判断する。

修正の手順

手順1: 標準の設定 k 個の標準 $M_i (i = 1 \dots k)$ を n 回測定し、読み $y_{ij} (i = 1 \dots k, j = 1 \dots n)$ を得る

手順2: 校正のための関係式の定数の計算 手順1で求めたデータを用いて、新たな校正式の定数(α 、 β)を求める。最小二乗法により、誤差分散が最小になるように決める。

	校正の種類	関係式	測定値 \hat{M}_{ij} の計算	校正式の求め方
a	点検だけの校正	$y = M$	$\hat{M}_{ij} = y_{ij}$	
b	零点校正	$y = y_0 + M$	$\hat{M}_{ij} = y_{ij} - y_0$	①零点or基準点 M_0 での読みの平均 $\bar{y}_0 = \frac{\sum_i y_{0j}}{n}$ ②校正式: $M = M_0 + (y - \bar{y}_0)$ 零点校正 $M_0 = 0$
c	基準点校正	$y = y_0 + (M - M_0)$	$\hat{M}_{ij} = M_0 + (y_{ij} - \hat{y}_0)$	
d	目盛間隔校正	$y = y_0 + \beta M$	$\hat{M}_{ij} = \frac{y_{ij} - y_0}{\hat{\beta}}$	①始点での読み y_0 ②感度係数 $\hat{\beta} = \frac{\sum_i \sum_j (y_{ij} - y_0) M_i}{n \sum_i M_i^2}$ ③校正式: $M = \frac{y - y_0}{\hat{\beta}}$
e	零点比例式校正	$y = \beta M$	$\hat{M}_{ij} = \frac{y_{ij}}{\hat{\beta}}$	①感度係数 $\hat{\beta} = \frac{\sum_i \sum_j M_i y_{ij}}{n \sum_i M_i^2}$ ②校正式: $M = \frac{y}{\hat{\beta}}$
f	基準点比例式校正	$y = y_0 + \beta(M - M_0)$	$\hat{M}_{ij} = M_0 + \frac{y_{ij} - y_0}{\hat{\beta}}$	①基準点 M_0 での読みの平均 $\bar{y}_0 = \frac{\sum_i y_{0j}}{n}$ ②感度係数 $\hat{\beta} = \frac{\sum_i \sum_j (y_{ij} - \bar{y}_0)(M_i - M_0)}{n \sum_i (M_i - M_0)^2}$ ③校正式: $M = M_0 + \frac{y - \bar{y}_0}{\hat{\beta}}$
g	一次式校正	$y = \bar{y} + \beta(M - \bar{M})$	$\hat{M}_{ij} = \bar{M} + \frac{y_{ij} - \bar{y}}{\hat{\beta}}$	① $\bar{y} = \frac{\sum_i \sum_j y_{ij}}{nk}$ ②感度係数 $\hat{\beta} = \frac{\sum_i \sum_j (M_i - \bar{M}) y_{ij}}{n \sum_i (M_i - \bar{M})^2}$ ③校正式: $M = \bar{M} + \frac{y - \bar{y}}{\hat{\beta}}$

$$y = \alpha + \beta M$$

$$y_i = \alpha + \beta M_i$$

$$y = \bar{y} + \beta(M - \bar{M})$$

$$S_e = \sum [y_i - \bar{y} - \beta(M_i - \bar{M})]^2$$

パラメータ \bar{y} 、 β を S_e が最小にする条件は、 $\frac{\partial S_e}{\partial m} = 0$ 、 $\frac{\partial S_e}{\partial \beta} = 0$ である。

$$\frac{\partial S_e}{\partial m} = (-1) \times 2 \times \sum [y_i - \bar{y} - \beta(M_i - \bar{M})] = -2 \sum (y_i - \bar{y}) = 0$$

$$\begin{aligned} \frac{\partial S_e}{\partial \beta} &= (-1) \times 2 \times \sum [\{y_i - \bar{y} - \beta(M_i - \bar{M})\} \times (M_i - \bar{M})] \\ &= -2 \left[\sum (M_i - \bar{M})y_i - \beta \sum (M_i - \bar{M})^2 \right] = 0 \end{aligned}$$

$$\bar{y} = \frac{1}{n} \sum y_i$$

$$\beta = \frac{\sum_i (M_i - \bar{M})y_i}{\sum_i (M_i - \bar{M})^2}$$